



日本舞踊 藤間流

裕志朗の会

裕志朗の会は、

1. 自分らしい生き方を実現したい
2. ビジネスリーダーとして、全体を直覚的に捉える「感性」とハイクオリティの意思決定をする為の「主観的な」自分の内なるスケール（ものさし）を身につけたいという仲間の集まりです。

その方法として、日本舞踊という伝統芸術にある「日本の美意識」の根底に流れるスピリット（真・善・美）の精神から学び取ろうとお稽古に励んでいます。

日本舞踊は、日本の伝統芸能にあって 437 年の歴史を持ち、古典芸能でありながら、大衆芸能と共に創り上げていく演劇性（歌舞伎舞踊）でもあります。舞台上での舞い踊る姿は一瞬一瞬の動くアートです。見る人と演者の感性の共有・感応の世界です。

私たちは、日本の美意識の詰まった古典文学を読むように、理想とする価値観を心で掴み取り、自分の五体（頭・首・胸・手・足）で表現します。

又、逆に、動きやしぐさの中に様々な感性を自覚し、その中にある（真・善・美）に照らし、世界、社会に向き合っていく生き方を身に付ける為、お稽古をするのです。

会主 藤間 裕志朗（ふじまゆうしろう）
プロフィール

世界を駆ける日本舞踊家
Japanese Traditional Dance Professional

まず動きありき
動くことから心を作っていく



本名、山口博子。北九州市で生まれ育ち、器械体操で体幹を作る。29歳のとき日本舞踊 藤間流に入門。45歳で藤間裕志朗の名を許され、49歳で師範となり「裕志朗の会」を設立。1990年より毎年、能楽堂 他で公演を主催する。55歳で杵屋禄宣裕（長唄）名取り、61歳で望月太津三郎師に太鼓を師事。その間10年間黒田バレースクールにてモダンバレエを習い、舞台の空間と洋舞の基礎を身につける。

「わっしょい百万夏まつり」の踊り部部会員を務める傍ら、百万踊り・創作部門で6度のグランプリ他、受賞歴多数。2013年にできたわっしょい百万夏まつりの新曲「いいっちゃ ええっちゃ 北九州」の振り付け、市民と企業への講習会をこなす一方、海外は韓国・イタリア・フランス・オランダ・タイ・オーストリア・チェコ・北アイルランド・ベトナムなどで日本舞踊を裕志朗の会として日本文化の交流をする。福岡市平尾、北九州市小倉、熊本県天草市、東京都日本橋にて稽古場を持ってきた。日本舞踊の技で今を生き抜くしなやかなで芯のある心と身体を育てる。